



第29回例会報告 *通算例会回数4213回目* (4月10日 於 今治商工会議所2階 大会議室)

【 出 席 報 告 】

・ 会員数 48名 ・ 出席数 26名 ・ 欠席数 22名
・ 当日出席率 57.77% ・ 前々回修正出席率 100.00%
<欠席会員>阿部、原、平田、廣川、井上、菅、木村(敏)、小堀、近藤、宮道、大澤、岡本、重松、坂本、齊藤、渡邊
八木(正)、八木(真)、米北
〔免除会員〕檜垣(巧)、久米、光藤
<3/27 欠席補填>(3/17 今治北)阿部、平田、井上、菅、木村(雅)、木村(敏)、近藤、河野、久米、向井、西信、尾越、大澤
岡本、重松、志尾、渡邊、八木(正)、矢野、米北、吉田

- 4月8日(火)、村上会長・楠橋幹事・尾越社会奉仕委員長で毎年行っているあすなろ学園へ寄付してまいりました。
- ◇会長報告・5月10日(土)松山西 RC 創立60周年記念行事があります。今治RC90周年の際に松山西 RC からご登録いただいた人数分を今回お返しするため、ご協力いただく11名の皆様本当にありがとうございました。※登録料の集金は5月8日(木)～です。
- ◇幹事報告・次年度クラブ計画書の名簿作成にあたり、役職名・連絡先等、訂正・変更がございましたら回覧しております名簿に赤ペンでご記入か事務局まで連絡をよろしくお願いいたします。
- ◇親睦活動委員会・お誕生日スピーチ
・木村雅彦会員：あつという間の60年でした。健康寿命を延ばしこれからも元気で過ごしたいです。

☆ 職場訪問例会のご案内【出欠締切5月16日(金)午前中】 ☆

・ 日 時 : 2025年5月22日(木) 12:00～
・ 場 所 : 日本食研 シェンブルン宮殿工場 [今治市クリエイティブヒルズ2番地1]

地区研修協議会報告～3月30日(日)高知県県民文化ホールにて開催～

◆原竜也次期会長(代読):次年度会長として全体会議、部門別協議会(会長・幹事・会計)に参加して参りました。次年度一般会計予算の審議がありましたが、特別会計から460万を振り替えないと赤字になるという予算計画に少々驚きを感じました。ちなみに年間予算規模は約7,400万です。地区分担金についての見直しの提議があり、その場で決裁を取りたいという執行部の意見がありましたが、参加者から性急過ぎるという反対意見があり、2週間以内に異議があればガバナー・エレクト事務所に連絡をするということになりました。協議会が決裁をする場であれば、事前の議題提議はいただきたいと思っております。地区分担金については減らす方向で問題は無いと思っておりますので先週の理事会でも報告させていただき、異議なしで進めます。地区のガバナンスには少し疑問も感じましたが、次年度会長として当クラブのガバナンスについては理事、会員の皆様に丁寧に語りながら進めて参ります。◆板脇俊匡次期

幹事:地区研修協議会は、全体会議→昼食→部門別協議会→全体会議という流れで進行しました。最初に最も私の印象に残ったことをお話しします。それは最後の全体会議の時松山南RCの森雄司ガバナーノミニの自己紹介です。森さんは2018年に松山南RCに入会されましたが、今治市出身とのことです。そして今治青少年ロータリー友の会に入会されていて…「友の会の活動では、キャンプをしたり、OBの大学生の経験を聞いたりといういろいろな体験をして、友の会での活動がロータリーの原体験として今でも良い思い出として残っている。そして今治RCには当時大変お世話になり、心から御礼を申し上げたい。友の会の活動を通じて、私のロータリアンとしての礎が形成されたことは間違いないと思っています。今治RCの皆様本当にありがとうございました」と全体会議という厳粛な場で今治RCへの賛辞が述べられ、当クラブから出向した者として、とても嬉しく誇らしく感じました。いずれにしても再来年度は当クラブと非常に関係が深いガバナーが出ることは素晴らしいことで、このご縁を大切にしたいと思いました。▼本題ですが、次年度のRI会長はマリオ・セザール・マルティンス・デ・マカルゴさんで、25-26年度の会長方針は「よいことのために手を取り合おう(UNITE FOR GOOD)」です。次期ガバナーの織田英正さんは今年の2月にアメリカフロリダ州のオーランドで開かれた次期ガバナー大会に出席され、直接マリオさんの「愉快で前向きな人柄」に接し感銘を受けたと述べておられました。次期RI会長方針や人となりは「ロータリーの友誌3月号」で紹介されておりますので、ぜひご覧ください。さて、研修会の資料から会長スピーチを要点しますと「分断されがちな世界において、ロータリーは団結と希望の光となります。世界でよいことをするという共通の目的で私たちを一つにします。ロータリーはより良い人間となり、人々に奉仕するよう私たちを鼓舞します。私たちは常に人の欠点を探しがちですが、人の才能を見つけるべきなのです」また「ロータリーの最大の財産は会員です。会員増強は私たちの組織の最優先事項であり、最も価値ある資産であり、最大の課題であります」とも語っておられ「マリオさんは地域活動を通じて会員増強に結び付けるという、明確な目的を示された」と述べられました。▼織田英正次期ガバナーは、高知南RCの方です。ガバナー方針は「地区密着のロータリーを目指そう」です。織田さんは歯科医であり、歯科医療を例に挙げて、歯科衛生士という歯科診療をサポートする方(99%は女性)が無くてはならず、チームとして歯科医療が成り立っていると、RCも会員一人一人が重要で、かつチームワークを発揮することが大切であるとして「会員増強が最優先課題」で「楽しくないとロータリーではない」とし、「明確な活動を他の人々に見せていき地域と繋がり、仲間を増やす会員増強につなげて頂きたい」と、来年の指針を述べられました。「会員増強」ということが来期のテーマです。具体的には2025年1月時点の2670地区の会員数2,796人から来期3,000名以上の会員数を目標に掲げています。何をもって楽しいと思えるかはおいおい価値観の違いがでるところではありますが、次期幹事予定者としては、お互いの立場を尊重し合い、またそれぞれの会員の思いに寄り添い、良い人間関係を築き、皆が一つになれる場を作っていく、そのことに心を砕いて参りたいと思った次第です。皆様におかれましても全会員が新会員を推進するくらいの勢いで、会員増強にお力添えいただきたいと思った次第です。また東邦彦地区研次期研修リーダーからは、芸能ニュースなどで普段見聞きするように、日本も訴訟社会となっているのでハラスメントにはくれぐれも気を付けて、居心地のいいクラブを作りたいとのことでした。また会員増強については女性会員や定年退職した人も対象となるとし、幅広い人材に目を向けて欲しいと述べられました。◆渡辺仁次期国際奉仕委員長:地区の国際奉仕は、『国際間の理解や親善、平和の推進』という大きな目標を掲げて青少年長期交換プログラム・短期交換プログラム・国際奉仕ファンドという三つの委員会で活動を行っているとのこと、今回の内容としては青少年の交換プログラムの長期の交換に関してがほぼでした。青少年交換プログラムの目的をきちんと聞いたのは今回が初めてで、地区国際奉仕副委員長の方が熱く青少年交換プログラムについて説明をしてくれてすんなりと全ての説明を聞けました。次年度の短期交換の話が少しだけあり、3月10日が最終締め切りで、愛媛県7人・香川県9人・高知県5人・徳島県4人と全体で25名の応募がありました。残念ながら今治RCからは0ということで、2年連続ゼロなので非常に残念に思います。応募が出ないのはホストファミリーの問題がネックなのかなと…ただ四国内や全国どこも、ホストファミリー



の受け手がないという問題はあるようです。大げさかもしれませんが、短期交換プログラムというのは子供の人生とまでは言いませんけども世界が変わる可能性がある機会だと思っているので、問題をこちら側で潰せることは潰してあげて、行かせてあげるチャンスを作りたいと個人的には思っております。◆志尾卓

哉次期会計:今年度に引き続き次年度も会計を務めさせていただきます。第 2670 地区の地区分担金について説明させていただきます。24-25 年度の前年度と比較して、25-26 年度の前年度の変更等については、一つ目は、地区大会分担金が前年度会員 1 人当たり 6,000 円年から本年度は会員 1 人当たり 5,000 円に引き下げられます。二つ目は、危機対策委員会分担金・地区包括賠償責任保険の保険料項目が前年度会員 1 人当たり 100 円から 571 円に引き上げられました。そして全体的には説明があったように、引き下げられる方針です。これらの変更を加味して、25-26 年度区分分担金予算をシミュレーションしますと、地区分担金は 20 万円程度の減少となる見込みです。今治RCの地区分担金負担は約 120 万円から約 100 万円に減少し、一見良かったように感じますが、地区分担金は会員 1 人当たりで算出されますので、地区分担金が減った＝クラブ会員が減ったということになります。地区協議会では適切かつ持続可能な会計を維持するために、この問題について単価の引き上げも検討したようですが、まず会員増強について強い要請がありました。今治RCにおいても、会員増強へ向けて皆様頑張ってください。

◆佐々木達耶次期米山委員長:寄付状況と寄付増進のお願いがありました。特別寄付の人数を増やすことで寄付者割合が増加するため、地区内の奨学生の受入人数が増加します。寄付金額も大事だが、特別寄付の人数を増やすことについても各クラブで検討いただきたいとのことでした。表彰制度があり、個人の場合500万円以上、法人の場合1000万円以上の寄付をして、定められた条件を満たす場合に、紺綬褒章の授与申請がされることになっています。お世話クラブとカウンセラーの役割については次年度も今治RCには割り当てがないため、10月以降に卓話を依頼することになると思われます。

◆越智大輔次期公共イメージ向上DEI委員長:次年度から公共イメージDEI委員会を今治RCでも立ち上げます。今までの広報会報委員会がこの委員会に振り変わりますのでよろしく願います。今回いろいろ話を聞いてきたんですが、目的としては認知度や信頼性を高める委員会にしたいということ。一般の方達にはロータリーがやっているいいことをもっと周知して、世間にアピールをしてくださいとのことでした。委員会としては、SNSを最大限に有効活用して、フォロワー数を増やしていこうということで…ガバナー月信の表紙に各SNSの QR コードが載っているの皆さん読み取ってフォローをしてください。現在2670地区には、2,800弱の会員数に対してSNSフォロワー数がX・YouTube・Facebook・Instagram どれも50に達していません。皆様是非地区のSNSの登録およびフォローのご協力をよろしくお願いいたします。

◆坂本考弘次期クラブ奉仕委員長(代読):クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕の会議に出席してまいりました。まず初めにカウンセラーとして柳澤バスターガバナーの挨拶から始まりました。職業奉仕と社会奉仕においてはテーマが多くなっており、ロータリーは2019年に1業種1会員制は廃止され、2022年にはコロナの影響もあり web 会議が行われるようになりました。ロータリーは3年に一度シカゴにおいて規定審議会が行われています。今の時代に合った変革も必要となってきます。2670地区のクラブにおいて会員数の減少は大きな問題となっております。会員数の減少は、クラブ活動はもちろんのこと、社会奉仕活動、職業奉仕活動が十分に行えないことが予測されます。単に会員増強をするのであれば配偶者を入れれば会員数は維持ができます。坂出東などはロータリーの衛星クラブとしての在り方は、年会費の負担減、出席率の緩和などクラブとしての変革の一つとなっております。職業奉仕活動においてはそれぞれが自分の職業に誇りをもって天職としなさい、4つのテストに照らし合わせ他人から頼られる人になることが職業奉仕につながります。社会奉仕活動は地域によって特色があります。昔は特定の奉仕活動をしてはダメで、単年度で行うことが望ましかったが、現在は継続して長期的な奉仕活動を目指す事でロータリーの奉仕活動を広めることとなっています。現状の会員数でどこまでできるか、各クラブの奉仕活動の特性を表した活動報告を行います。次に祖父江委員長から社会奉仕について地域密着とガバナーの目指す奉仕活動が行われています。詳細は HP を参照してください。今回53クラブが102事業を行っており、平均2事業を行っております。主な活動は清掃活動28クラブ、植樹活動9クラブ、子供支援18クラブ、四国ならではの遍路関係が8クラブ、学校建設などの海外支援は2クラブ行われています。財団補助金活用事業において、今年度新規事業として我が今治クラブのサイクルンティ推進活動、南クラブさんの子ども食堂支援活動も紹介されました。一方、四万十RCなど四万十川の河川清掃は開始年不明なくらい長く続く事業も行われています。新しい試みとしては循環型の活動を行っているクラブもあります。企業を通じて、高齢者を雇用し、ブドウを栽培し、ワインを作り、それを売り上げる。その一部をチャリティすることで奉仕につながる。自分たちでできる社会奉仕を行っていることが大事です。最後に三谷委員長から社会奉仕について職業を通じての奉仕活動は RC のみではないでしょうか? 各々が職業を通じて奉仕活動を行っている。古来より日本人は相手のため、従業員のためと仕事をしてきた日本人には根幹的に社会奉仕の精神が宿っている。会員それぞれが家訓、社訓などを4つのテストに合っているのか見直し、それができていれば職業奉仕が達成されることとなります。目指す目的が過程を経る間に目的が変わってないかということも重要です。

◆廣川怜史次期青少年奉仕委員長(代読):委員長から挨拶ののち、4名の小委員長より順にインターアクトクラブ、ローターアクトクラブ、ライラ、ロータリー少年少女キャンプについて事業説明がありました。その後、質疑応答、カウンセラーの夏見ガバナーが総評をされ閉会しました。①インターアクトクラブについて:インターアクトクラブの現状は地区内インターアクト高校23校、提唱RCが73クラブ中21クラブ※今治、阿波池田RCが2校提唱しています。25-26年度のインターアクトクラブ年次大会は、ホスト校池田高校辻校で8/2、3に徳島県三好市内にて開催です。②ローターアクトクラブについて:ローターアクトクラブの現状は地区内ローターアクトクラブ5クラブ、提唱RC10クラブ※愛媛県内は3クラブ(新居浜 RAC、松山大学 RAC、松山 RAC)あります。・ローターアクトクラブの地区代表の方が出席されており、活動計画等発表されました。インターアクトクラブ、ローターアクトクラブともに新たなクラブの創設を呼びかけていました。③ライラについて:ライラは青少年指導者育成セミナー「リーダーのリーダーを育てるためのセミナー」と呼ばれており、参加者の呼びかけをしていました。④ロータリー少年少女キャンプについて:例年の開催場所であった余島キャンプ場が今年で閉鎖になり、来年はYMCA阿南海洋センターで実施予定とのこと。また来年からは事業実施期間、応募期間ともにロータリー側で決められるようになるため、以前はタイトであった参加者募集の期間に余裕ができる見込みがあるそうです。▼カウンセラーの夏見ガバナーから、今年の事業を振り返って、事業の目的・内容が「青少年に夢を」という行動計画に沿っていたか確認をしようということ、ロータリー活動を通じて「良い人間関係を作ろう」ということを強調されていました。「良い人間関係を作ろう」のはロータリアンに対してだけでなく、青少年事業の参加者、事業に携わる関係者全てに向かったメッセージであろうと思います。質疑応答にて「インターアクトクラブ、ローターアクトクラブ等がないクラブは自分たちのクラブの活動にどう落とし込んでいけばよいか?」という質問が出たのが印象的でした。私は今治クラブでインターアクトクラブがある状態しか知らないのと考えてもなかったのですが、改めて友の会の活動を継続している凄さに気づいた次第です。また、夏見ガバナーから「地区協議会という名称であるが、内容的には地区側からの一方的な説明や報告会になっているので、自分の代にはできなかったが今後は地区と各クラブが対話や意見交換ができるような場になって欲しい」といった趣旨の話もありました。

◆米北顕規次期会員増強委員長(代読):会員増強につながる何か良いアプローチが無いかと思って研修事業を聞いていましたが一般的なことが多かったように感じました。内容は次のとおりです。

①会員増強(新規会員の獲得)…ロータリークラブの活動、地域貢献、ネットワークのメリットを伝える。既存会員に知人やビジネスパートナーを紹介してもらう。例会やイベントに非会員を招待し、ロータリーの雰囲気を経験してもらう。②会員維持(既存会員の満足度向上)…会員が楽しめる内容とし、学びや交流の機会を増やす。例会以外にも懇親会や小グループ活動を企画する。③退会防止(会員のモチベーション)…退会しそうな会員がいないか、役員や委員と情報を共有し個別にフォローする。会員が負担に感じていること(会費、時間、役割)を把握し改善策を検討する。…と簡単ですが、以上が研修事業の内容となります。

<ビジター>今治北ロータリークラブ 高木 康弘様 [職業分類:電信事業]

次回例会(4月17日)

【ライラセミナー報告】

- < 会員誕生日祝 > 原 竜也氏 (4/19) 尾越 優氏 (4/25) 井上 博之氏 (5/7)
< 配偶者誕生日祝 > 矢野 暢生氏 (4/24) 桑森ひとみ氏 (4/24) 近藤 正人氏 (4/27)
西信 正男氏 (5/4)
< 結婚記念日祝 > 志尾 卓哉氏 (4/24) 辰巳 和久氏 (5/4) 片山 泰志氏 (5/7)
< 入会記念日祝 > 木村 雅彦氏 (4/20) 八木 伸樹氏 (4/21)

[国際ホテル]

※お弁当個数事前連絡の為、例会出欠連絡は前日12時までご連絡をよろしくお願い致します。